

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸小俣		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1308番地		
自己評価作成日	平成 26年 11月 11日	評価結果市町提出日	平成27年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470800885-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26. 年 12 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・できる限りご入居者及びご家族の意思を尊重させていただいています。(夜間でも空腹の訴えがあれば、軽食などご用意しています。) ・いつも明るく穏やかな雰囲気です。一人一人と関わりを多く持っています。 ・ご家族・知人の面会が多く(1ヶ月平均43名)ご家族の協力がよく得られています。 ・常時看護師に連絡ができるので急な体調の変化にも対応ができます。 ・全介助の方でもゆったりと生活していただいています。(看取り対応の方など、ご家族の精神的フォローにも努めています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「もし自分がここで住むとしたら、或いは家族がここで過ごすとしたら」と思い、家族の求めている支援を引き出す事を考えている。「寄り添い共に生きる」を理念に掲げ、その人その人をより良く理解することでお互い助け合い・助け合って、利用者・職員が家族の様に「ただいま、おかえり」と声掛けしている。自分の家同様に、楽しく過ごしてもらえ環境を提供する支援に努めている事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添い共に生きる」理念を、部署会議などで全職員に意識を持ってもらい、ご入居者の気持ちを大切に一人一人の関わりを多く持たせて頂きご入居者個々の人生を大切に考えています。	法人理念を玄関に掲げ方針としてグループホームの理念としている。職員は家族同様にその人その人の理解に努め、おたがい助け合って寄り添う生活を送る様にその現場で行動を位置づけし実践している。更に管理者は人事考課時に理念を振り返る機会を作り職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に近隣の方と挨拶を交わすなど、基本的な事から取り組み、イベント時には声かけや案内状をお配りし参加をして頂いています。	近隣住民から季節の野菜を頂いたり、野菜の作り方を伝授してもらっている。毎月、区長に表敬訪問を行ない地域の祭り、公民館の行事等に参加している。また、実習生を受け入れ、事業所が講師として地域住民に認知症サポーターの養成講座を開催し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を、施設管理者が講師となり地域の方に呼びかけ参加して頂いています。その中で認知症について知って頂ける様に発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の開催回数は思うように実行できませんでしたが、開催時は市・地域包括・地域自治会・町内住民・退居者ご家族・現入居者ご家族・医療提携機関などの方に参加頂き意見交換を行っています。	年間開催予定計画、固定出席予定者を定め立案しているが、諸般の事情がいろいろ重なり開催が困難になっている。	運営推進会議はいろいろな立場の方から、意見や話し合いの中でサービス向上に生かす事が大切であり、メンバーを固定せず地域の理解と支援を得る為の貴重な会議と位置づけ、家族会を兼ねての開催も期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、責任者が市介護保険サービス事業者連絡会に携わっていることから、市担当者とは日常から頻りに連携を取らせて頂いています。	市担当者とは介護保険サービス事業者連絡会が毎月行われ、管理者は副会長に携わっており連携をとる機会が多い。また、時折、相談事・介護更新時には声をかけ情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的に危険のある方は、ご家族了承・書面にて承諾を得てベッド柵をさせて頂いています。必要最低限の柵で対応出来るようご入居者の状態を観察し考えています。	年1回法人研修会でプライバシーの保護も含めて拘束をしないケア、虐待の防止、権利擁護の勉強会に参加し、また、現場のケアの中でも言葉の拘束、虐待について職員間で部署会議を行い「しないケア」に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な事だけでなく精神的(声かけの内容など)にも職員同士話を意識出来るようにしています。身体的なことに関しては、入浴時や着交時に全身観察を行い傷や内出血の有無の観察を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署会議・社内研修の中で学んでおり、当施設では現在2名成年後見人制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を見て頂きながら、1つ1つの質問に丁寧にお答えし、不安の軽減に努め理解・納得を深めて頂いています。また、ご来館者がいつでも閲覧出来るように玄関付近に掲示されています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご入居者の状態を伝え話を聞かせて頂き、意見・要望などは全職員が共有しています。運営推進会議にご家族も参加して頂き話をして頂いています。記録に残し全職員共有しています。	面会時・年3回開催する家族会議に受けた家族の意見・要望は、部署会議で検討し、また、面会が少ない家族には毎月、電話をかけ、意見・要望を聞き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議で意見を出し合っています。日ごろから常に管理者と職員はメールなどでやり取りしており意見を言いやすい雰囲気作りにも努めています。	毎年、職員に「今の利用者の気持ちを考えて支えていくにはどうしたら良いか」等のテーマを出し具体的な意見を提出している。また、常日頃から直接代表、管理者とメールでも意見交換が多く出され、提案された意見は部署会議で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○ーJT・自己評価表を活用しています。○ーJTは職員同士で評価をし合い、全員で成長して行けるよう取り組んでいます。自己評価表は自分の中で目標を決め取り組み責任者が評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できる機会を作り個々にあった研修に参加しています。参加した職員はその月の部署会議で内容を発表し全職員に伝えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度伊勢市市内のGH／小規模施設が集まり意見交換の場を設けています。その時参加できる職員数名が代表で参加し話した内容は施設に持ち帰り検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が寂しさや不安を持たれないように面談時などにお話を傾聴し、ご本人の不安・困りごと・希望などを伺い話し合いを持つようにはしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人含め話し合いを持ちアドバイスや解決の糸口を見つけ常に連携を取れるようにはしています。事前に施設見学をし入居の希望を頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時、見学などで話を伺い現在必要とされる事は何かを見極め、他施設の紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物・掃除・食器拭きなどの出来る事を一緒にさせて頂いています。またご入居者に編み物を教えて頂いたり、日々の生活を楽しく頂けるように支援させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時に日常の様子や状態をお伝えし協力をお願いしています。日常の様子などを記したご家族へのお便りをお送りし現在の様子を定期的にご報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人などの面会もあります。友人・知人の面会時は、ご家族へご連絡しお礼を伝えさせて頂いています。	職員は個々の基本情報を元に生活歴や以前の環境等を理解し、馴染みの場所(スーパー・美容院・神社・お墓・桜花)へ、一人一人に寄り添った支援に努めている。また、以前の床屋さん、友人・知人が訪ねてくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物干しなど、一人の方をお願いするのではなく、ご入居者全員に声かけ・お手伝いをお願いし、ご入居者同士が支え助け合い、その中で良い関係が築ける様スタッフが輪の中に入り支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された方にも運営推進会議の役員になって頂き情報の提供をさせてもらっています。また相談された事には快く情報の提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者が個々のモニタリングシートにより状況の把握を行い意思困難な方は本人にかわり目標の評価を行っています。関わりの中からご本人の気持ちを伺ったりくみ取ったり出来る様に努めています。	日々暮らしの中から個人の思いや意向の把握に努め、言葉の記録票に仔細を記録し職員間で共有しながら生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談などから生活歴や生活環境を探り全職員が情報共有し、サービス提供が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に職員間で連携を取り、心と体の状況など変化がある時は個人連絡表により職員全員が共有出来るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状把握をし本人の希望・意向を一番に考えご家族・看護師・医療関係者などの意見を聞き、より良く暮らすため職員みんなで意見を出し作成に活かしています。	サービス担当者会議を開催し、家族・計画作成者・看護師で構成され、モニタリングを毎月、担当職員・計画作成者がおこない3ヶ月毎に評価し見直しをおこなっている。遠距離の家族にも必ず連絡を入れ話し合い、意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日常の記録に記入し、ケアの対応は個人連絡表に記入し出勤時に目を通しサインする事で情報共有・実践しています。またこれらの情報をモニタリング・介護経過の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のご協力により外泊に行かれたり、買い物支援・外出支援を職員が同行させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生・中学生が実習に来て下さり行事(散策・防災訓練など)に参加して頂いたり、定期的にボランティアが来館し交流をはかっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者・ご家族の希望を大切にし提携機関と連携をとり毎月の定期診療と病状にそくした医療機関を受診出来るように支援しています。	事業所の協力医が家族の希望で全利用者の主治医となっている。主治医以外の専門医の受診は家族と連絡を取り、受診や薬情報等は看護師・職員間で共有している。歯科医から定期検診があり、口腔ケアの指導が週2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の全身観察や日々の関わりで表情や身体の変化に気付いたら、すぐに看護師にメールなどで連絡し支持をおおぎ適切な処置を行っています。必要であれば受診を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時・退院時には双方の症状などの情報交換の努め、入院先・退院後の対応がスムーズに行えるように連携を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いを行い職員の心構えは出来ており、少しでもその方らしい終末期が出来るようにご家族・医療関係者と連携を取り支援しています。	家族からの看取りの意向が多くあり、契約時に指針で利用者・家族の理解を得て意向を聞いている。また、その状態に陥った時に再度、協力医・看護師・家族で話し合い誓約書を交わしている。看護師が職員一人一人に看取りについて日頃から対応方法を話し合っている。今まで看取り経験は17名ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修・社内研修・部署会議などで応急手当や初期対応訓練を実施しています。また各ユニットにマニュアルを備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練と安否確認メール訓練により災害時の対応が出来るようにしています。近隣との関わりを大切に協力頂ける様努力しています。	年3回、事業所独自で津波、日中、夜間想定での防災訓練(避難、通報、消火)で近隣住民、区長に協力依頼して利用者や避難訓練を実施している。食料品、飲料水、おむつ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し上から目線ではい対応を心がけています。介助させて頂く際など、ご本人に声かけし同意を得ています。	職員は利用者一人一人の気持ちを把握し、声掛け・態度・挨拶・家族との対応について誇りや自尊心を損なわないように配慮している。法令順守、プライバシーの個人情報保護法について、法人研修会議に年1回参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者が起床時間・着用する服を決められています。入浴希望や買い物などはご本人が意思決定をして頂ける様な声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・着替え・就寝時間など、ご自身のペースで行って頂いています。希望により外食・外出支援が出来る環境を整えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面時に化粧水や乳液などをつけられおしゃれを楽しんでみえる方、美容師の訪問や髪染め外出、衣類の買い物支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味・見た目にも力を入れています。卵を割って頂くなど無理なくして頂ける事をお手伝いして頂いています。好き嫌いの多い方は好みの食事を別に作り、味見をして頂き味付けを行っています。	台所では利用者も交わり、盛り付け・配膳を役割に応じて職員と一緒にしている。昼は委託業者の食事となるが朝・夕は職員と利用者が買い出しに行き日頃の会話の中で聞き取った好物を月2回、メニューに加えている。利用者同志、職員で話しかけ食事を楽しむ一時が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1リットルの水分を摂取して頂いています。お茶・紅茶・ジュースなど何種類からお好みの物を選んで頂いています。寒天ゼリーをデザートのように提供し水分摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご入居者が口腔ケアをされた後、磨き残しがないか確認し必要時にお手伝いさせていただきます。提携歯科医院の毎週の口腔ケアと3ヶ月に1回の定期健診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づきトイレ誘導を行っています。尿意・便意のない方はトイレ誘導を行いトイレ排泄をして頂けるように支援を行っています。排泄時の記録から誘導や声かけの時間を見直しています。	日々の排泄記録から排泄リズムを掴み、個々に合わせた声掛けやトイレ誘導を心掛け、トイレでの自立排泄が出来る様に支援している。半年間でおむつの使用量が減少した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂取して頂くよう寒天ゼリーをお出ししたり廊下の歩き運動や腹部マッサージを行い自然排便を促しています。提携医とナースが連携し必要時は薬を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者の体調を考慮しながら希望にそった入浴をして頂いています。好みに応じた入浴剤の使用や温度調節をおこなっています。	週3回、午後からの入浴支援を行い利用者と歌を歌ったり、会話を楽しみながら、時には入浴剤を用いて入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず心地よい休息を取って頂く為畳コーナーを利用して頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人にあつた服薬時の声かけをしています。薬の変更時などは2週間4検を行い、状態の変化に気づけるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課以外に趣味や興味のある事を引き出す声かけを行っています。地域の方がボランティアに来て下さり、歌や体操など参加頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ね、洗濯物干しや日光浴を中庭で行ったり、近隣散歩・買い物等の外出支援などを支援しています。ご希望などを会話中におっしゃられた時は、実際に希望に添えるように検討し支援しています。	中庭で外気に触れ天気の良い日には近所に散歩に出掛けたり、週2回の食材の買い出し、また、髪を染めに美容院、洋服を買いに出掛け、実家を見に行く利用者もいる。年間行事計画を立てドライブを兼ねて桜見、紅葉、神社、希望地に出かける様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている方もおみえになります。希望に応じ買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者・ご家族の希望により個人の携帯電話を利用されている方もみえます。年賀状やご家族からのお電話もあり会話を楽しまれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂けるように工夫しています。壁には季節のカレンダーを飾り季節感を感じて頂いています。ご入居者に混乱のないように、トイレ・居室入り口に貼紙などを貼らせて頂いています。	明るくすっきりしたホールや廊下、また、使い勝手の良いトイレや浴室、食堂も整理整頓され清潔感ある工夫がされている。一休みしたり、利用者同志談笑する等、くつろげる畳コーナーやソファが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当たりの良いスペースに2~3人掛けのソファを置かせて頂き、会話や趣味のスペースとして利用頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや・椅子・鏡台やご家族の写真なども飾らせて頂き、安心して頂ける工夫をしています。。今までの生活により畳部屋の方が安心できる方は畳を敷かせて頂いています。	各居室ともすっきりとした明るい空間が保たれ、ベット・押入れが備え付けられている。使い慣れた筆筒・椅子・ぬいぐるみ等が置かれ、写真・自分で作った作品が貼られ、思い思いの居心地良さを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者目線に合わせて表札やトイレの場所の貼紙を貼らせて頂いています。居室内もご入居者目線に合わせて配置を行っています。		